

宮崎県立看護大学大学院看護学研究科 平成28年度修士論文要旨

中堅保健師のPDCAサイクルに基づく 保健活動の力を高める指導の視点

荒瀬みえ（応用看護学）

【キーワード】 中堅保健師・PDCAサイクル・保健活動・現任教育・指導

本研究の目的は、中堅保健師のPDCAサイクルに基づく保健活動の力を高める指導の視点を明らかにすることである。研究対象は、平成27年度A県中堅保健師研修Ⅰを受講した中堅保健師9名へのアクションプラン実践過程におけるコンサルタント5名の指導過程である。

研究方法は、アクションプランの計画報告、中間報告、最終報告の3回の集合研修におけるコンサルタントの助言をICレコーダーに録音、逐語録におこした後、指導や助言の意図について聞き取り、追加記録し、資料とした。そして、コンサルタントの指導を受けて、PDCAサイクルに基づく保健活動の力が高まったと確認できた8名の中堅保健師のアクションプランの実践過程におけるコンサルタントの指導過程を分析対象とした。研修会の記録を元に、コンサルタントの指導によりどのように中堅保健師の保健活動の力が高まっていったのか、変化のプロセスを明らかにした上で、その変化に影響を及ぼしたと思われるコンサルタントの指導を資料から抽出し素材化した。得られた104の研究素材をPDCAサイクルの段階ごとに分類し、指導や助言の意図を元に、どのような点に着目して指導をしているか、の共通性に着目して類別、抽象化し、＜指導の着眼点＞を明らかにした。さらに、どのような助言をしているか、言動の共通性に着目して類別、抽象化して＜指導内容＞を抽出した。その結果、中堅保健師のPDCAサイクルに基づく保健活動の力を高める指導の視点と

して以下の結論を得た。

1. Plan（計画）の段階の指導の視点 [地域診断]の段階

- 1) 【地域の実態を示す既存のデータが分析されているか】に着目し、地域の特性や課題を明らかにするため活用できるデータ源を示したり既存のデータの読み取り方や活用方法について例を示して助言する。
- 2) 【住民の声をキャッチしているか】に着目し、住民の生の声も重要なデータであることに気づかせ、地域診断は住民と共に行うことが重要であることを確認する。
- 3) 【これまでの保健活動の振り返りがなされているか】に着目し、これまでの保健活動の実際及び成果や困難などを整理し、問題意識を持つに至った背景として提示するよう助言する。
- 4) 【取り組みたい保健活動の根拠が示されているか】に着目し、問題意識を持つに至った事実や保健師の判断過程を表現することや、他者と根拠が共有できるための資料化や表現の方法について助言する。
- 5) 【取り組みたい保健活動の内容がテーマとして示されているか】に着目し、テーマの設定がプランの方向性に影響を与えること、目指す姿をテーマに設定することで目標達成に近づくことを助言する。他、Plan（計画）の[目標設定]の段階では2つ、[実践計画の立案]の段階では5つの指導の視点が得られた。

また、2. Do（実践）の段階として4つ、3. Check（評価）の段階として2つ、4. Action（改善）の段階として1つの指導の視点が得られた。

これらの指導の視点は、保健師が行う保健活動の本質を導くものであり、PDCAサイクルに基づく保

健活動を行うことを責務とする保健師への指導として、
新任期、中堅期、リーダー期、どの時期の保健師の
育成にも活用可能な指導の視点ともなると考える。